科目名: 成人臨床看護Ⅴ	必修	1単位(45時間)
(Adult Clinical Nursing Ⅴ)		

履修年次/時期: 2年次 後期　　授業形態: 講義

主担当教員: 棚橋 泰之

主担当教員詳細: 実務経験 看護師13年:実務経験および教育経験から終末期にある対象への看護をじっくり考えられるような授業を展開する。

担当教員名: 棚橋泰之

学修目的	終末期(エンドオブライフ)にある人とその家族に対する看護を学ぶ。終末期にある人とその家族のＱＯＬの維持向上のための援助の基盤となる考え方や、基礎知識・態度について事例を用いて理解を深める。 関連するCP: CP1,CP2,CP3,CP4,CP5　　科目No. KNz-212		
この科目が目的としているDP	1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1)生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
		(2)医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
	2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1)教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
		(2)専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
		(3)社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
	3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1)多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
		(2)優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
		(3)看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○
	◎: この講義・演習・実習と最も関連があるDP ○: この講義・演習・実習と関連があるDP		
到達目標	1. 終末期看護の概念や目的が説明できる。 2. 終末期にある人と家族の特徴が理解できる。 3. 終末期にある人の病状や苦痛・苦悩、生きる価値や希望に対する理解を深め、よりよく生きるための苦痛の緩和やQOLを支援する援助について説明できる。 4. 死生観を意識化し、終末期看護に対する考えを表現できる。		
授業概要	終末期にある人とその家族の体験と全人的(身体的、心理的、霊的、社会的)苦痛の理解を深め、倫理観、死生観を養う。尊厳を保ちQOL の維持向上のための援助の基盤となる考え方、看護について学ぶ。		
評価方法	定期試験 100% 評価に対するフィードバックは掲示にて伝える。		
予習・復習時間	【予習】1.9時間 【復習】1.9時間		
教科書	① 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学概論(医学書院) ② 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) ③ 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器(医学書院) ④ 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器(医学書院)		
参考書	必要時、授業内で提示する。		
ｵﾌｨｽｱﾜｰ連絡先	在室時は調整し対応。不在時は下記メールに連絡ください。 棚橋泰之:3号館3階 研究室 tanahashi@kdu.ac.jp		

実施回	第1回	実施日	2026/11/18（水）	時限	2	班	
授業計画	ガイダンス 終末期医療の現状 ① 死についての概念（生物学的、法的、社会的、文化的側面）が説明できる。 ② 我が国の終末期医療の現状と課題が説明できる。 ③ 終末期医療の倫理的問題が説明できる。	予習	テキスト①第9章通読のこと 近年の我が国の人口動態を把握しておく				
		復習	授業内容の復習				
		キーワード	多死高齢社会における終末期医療、告知、安楽死、尊厳死、意思決定支援、QOL				
授業形態	講義	担当	棚橋				

実施回	第2回	実施日	2026/11/25（水）	時限	2	班	
授業計画	エンドオブライフケアの概念と終末期医療 ① エンドオブライフケアに関連する概念を説明できる。 ② 終末期医療・看護における倫理的課題と国の取り組みを説明できる。	予習	テキスト②第1章通読のこと				
		復習	授業内容の復習				
		キーワード	終末期（エンドオブライフ）、エンドオブライフケア、ターミナルケア、ホスピスケア、告知、DNAR 、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				

実施回	第3回	実施日	2026/12/09（水）	時限	2	班	
授業計画	終末期患者とその家族の特徴 ① 終末期患者の理解と看護について説明できる。 ② 終末期患者の家族の理解と看護について説明できる。	予習	テキスト②第4章通読のこと				
		復習	授業内容の復習				
		キーワード	症状マネジメント、全人的苦痛、スピリチュアルペイン、死の受容家庭、意思決定支援（代理意思決定）、アドバンスケアプランニング、アドバンスディレクティブ、リビングウィル、家族の悲嘆と悲嘆ケア、グリーフケア				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				

実施回	第4回	実施日	2026/12/10（木）	時限	3	班	
授業計画	終末期医療における緩和ケアの実際 ① 日本における緩和ケアの現状について説明できる。 ② 緩和ケアにおける多職種連携と看護活動について説明できる。 ③ 緩和ケアにおける看護師の役割を説明できる。 ④ 終末期医療における医療チーム活動の実際について説明できる。	予習	テキスト②第2章通読のこと				
		復習	授業内容の復習				
		キーワード	症状マネジメント、全人的苦痛、スピリチュアルペイン、意思決定支援、グリーフケア、緩和ケアチームアプローチ				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				

実施回	第5回	実施日	2026/12/15（火）	時限	2	班	
授業計画	終末期患者の看護（1）慢性閉塞性肺疾患事例 ① 事例の状態のアセスメントができる。 ② 慢性呼吸器疾患とともに生きる人のエンドオブライフケアについて説明できる。	予習	テキスト③第5章の慢性閉塞慢性肺疾患について　テキスト②第5・6章を通読				
		復習	講義内容の振り返りとノートの整理				
		キーワード	非がん性呼吸器疾患、緩和ケア指針、非薬物療法、意思決定支援、症状マネジメント、全人的苦痛				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				

実施回	第6回	実施日	2026/12/16（水）	時限	2	班	
授業計画	終末期患者の看護（1）慢性閉塞性肺疾患事例 ① 事例の状態のアセスメントができる。 ② 慢性呼吸器疾患とともに生きる人のエンドオブライフケアについて説明できる。	予習	テキスト③第5章の慢性閉塞慢性肺疾患について　テキスト②第5・6章を通読				
		復習	講義内容の振り返りとノートの整理				
		キーワード	非がん性呼吸器疾患、緩和ケア指針、非薬物療法、意思決定支援、症状マネジメント、全人的苦痛				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				

実施回	第7回	実施日	2027/01/06（水）	時限	2	班	
授業計画	終末期患者の看護（2） ① 事例の状態のアセスメントができる。 ② 成人期にある人とその家族のエンドオブライフケアについて説明できる。	予習	テキスト④第5章の子宮頸がんについて。テキスト②第5・6章を通読				
		復習	講義内容の振り返りとノートの整理				

		キーワード	全人的苦痛、死の受容過程、終末像、看取り、家族看護、グリーフケア、死生観
授業形態	講義・演習	担当	棚橋

実 施 回	第8回	実 施 日	2027/01/13 (水)	時限	2	班	
授業計画	終末期患者の看護(2) ① 事例の状態のアセスメントができる。 ② 成人期にある人とその家族のエンドオブライフケアについて説明できる。	予　習	テキスト④第5章の子宮頸がんについて。テキスト②第5・6章を通読				
		復　習	講義内容の振り返りとノートの整理				
		キーワード	全人的苦痛、死の受容過程、終末像、看取り、家族看護、グリーフケア、死生観				
授業形態	講義・演習	担当	棚橋				